

令和2年5月29日

川辺町議会議長 桜井 真茂 様

川辺町議会議員 瀬尾 俊春

令和2年川辺町議会第2回定例会一般質問通告書

以下のとおり通告します。

1. 質 問 名 中・高年ひきこもり者への対応について
2. 回答を求める先 健康福祉課
3. 質問の概要

内閣府が2018年に40歳から64歳までの5千人を対象に実施した「生活状況に関する調査」の報告書のなかで、中・高年ひきこもり者の数を推計61.3万人と公表しました。

川辺町での、当該対象年齢人口は約3,200人でこれから単純に推計すると、46人のひきこもりの方がみえることとなります。

そこで、町が把握しているひきこもり者の実態について、3点伺います。

1. ひきこもり者は何人ですか。
2. 中・高年ひきこもり者の実態について、調査を行っていますか。
3. ひきこもり問題について、町では何か対策を講じていますか。

令和2年6月16日

令和2年川辺町議会第2回定例会一般質問答弁書

- | | |
|----------|--------------------------|
| 1. 質問名 | <u>中高年ひきこもり者への対応について</u> |
| 2. 質問議員名 | <u>瀬尾俊春 議員</u> |
| 3. 答弁者 | <u>健康福祉課長 (担当 健康福祉課)</u> |
| 4. 答弁の概要 | |

ひきこもりとは、社会生活を避けて6か月以上家庭にとどまり続ける状態をいい、体や心の健康上の問題が影響しているとも言われております。

1点目と2点目の質問は、関連しているため一緒にお答えします。

中高年のひきこもり者の実態調査は行っておりませんので、現状町内に、ひきこもり者が何人おられるかは、把握しておりませんが、保健センターでの近年の相談件数は、年間1件となっております。今まで保健師が関わったケースとしては、精神疾患等があり、医療機関等の関係機関と連携をとりながら対応しました。

また、地域包括支援センターが高齢者宅を訪問した際に、成人のひきこもりの方がいることや、民生児童委員が訪問等で知ることにはありますが、ひきこもりの問題は、家族が他人に知られたくないと思われるケースもあり大変デリケートなことです。そのため、家族から困っていると相談等がある場合に、対応できる体制を整えています。

次に3点目のひきこもり問題についての町の対策については、岐阜県精神保健福祉センターの作成したひきこもり支援ガイドブックに、相談窓口として町保健センターとその他の支援機関が紹介されています。また、制度の啓発として、広報かわべ等を活用し、相談窓口を町に限らず広く紹介することも、町民に寄り添った支援と考えています。

様々な相談窓口の紹介や、町民との関わりを大切に、今後も相談支援を行っていきたいと考えております。